

第4章 聖化

□はじめに・・・ 聖化について、次のアウトラインにより学びます。

1. 「聖化」の意味

聖化に関連する9つのギリシヤ語が使われている箇所を見ると、「聖化」の基本的意味は、「別に取り分けること」であると、わかります。日本語聖書で「聖化」ではなく、「聖別」とも訳されるのは、そのためです。

2. 「聖化（聖別）」の8つのパターン

誰が（何が）、誰を（何を）、別に取り分けるのでしょうか。

聖書では、8つのパターンがあります。

3. 「聖化」はどのようにして起きるのか 5つ

聖化とは、神が信者をこの世とは別に取り分けてくださることです。それはどのようにして起きるのでしょうか。まず、信者が自分の清潔さや正しい行いに立たず、イエス・キリストにあるという地位に立つことです。このことをはじめとして、5つのことがポイントとなります。

4. 「聖化」の主体・動因・経路

前節では、聖化がどのようにして起きるのか、5つのポイントがありました。この第4節では、聖化について、あらためて、主体、動因、経路の3つの局面から見ます。

聖化は、①三位一体の神が主体となって起きることです。②神が働かれるとき、それは神の良きみこころから発するものです。③聖化は聖書に記された神のことばを通して行われます。

聖化の主体は三位一体の神、動因は神の良きみこころ、経路は神のことば、です。

5. 「聖化」のタイプ 4つ

聖書は、聖化のタイプが4つあることを教えています。まず、人を信者に導くための聖化、次に、信者となった瞬間、その人を神の目から見てすでに完全に聖いという地位を与える聖化、三番目に、信者をその地位にふさわしい者と変えていく聖化、四番目に、罪の存在そのものをなくしてしまう最終的聖化です。

この5つの節を3回に分けて学ぶ予定です。本日は、第1節「聖化」の意味です。

1. 「聖化」の意味・・・聖化に関連するギリシヤ語の用例 9つ

(1) ハギアゾウ 別に取り分ける

① マタ 6 : 9、ルカ 11 : 2

御名があがめられますように

② マタ 23 : 17、19

供え物と、その供え物を聖いものにする祭壇と、どちらがたいせつなのか

③ ヨハ 17 : 16～19

わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではありません。
真理によって彼らを聖め別ってください。あなたのみことばは真理です。
あなたがわたしを世に遣わしたように、わたしも彼らを世に遣わしました。
わたしは彼らのため、わたし自身を聖め別ちます。彼ら自身も真理によつて聖め別たれるためです。

④ エペ 5 : 25～27

キリストは教会を愛し、教会のためにご自身をささげられました。
キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、
ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。

⑤ II テモ 2 : 21

だれでも自分自身をきよめて、これらのことを離れるなら、
その人は尊いことに使われる器となります。
すなわち、聖められたもの、主人にとって有益なもの、あらゆる良いわざに間に合う（準備された）ものとなるのです。

⑥ ヘブ 2 : 11

聖とする方も、聖とされる者たちも、すべて【元は】ひとつです。

⑦ ヘブ 9 : 13～14

もし、やぎと雄牛の血、また雌牛の灰を汚れた人々に注ぎかけると、それが聖めの働きをして肉体をきよいものにする^{とすれば}、まして、キリストが傷のないご自身を、とこしえの霊によって、神におさげになったその血は、どんなにか私たちの良心をきよめて死んだ行い（レビ系祭司職による祭儀）から離れさせ、生ける神に仕える者とする^{こと}でしょう。

⑧ I ペテ 3 : 15 心の中でキリストを主としてあがめなさい。

(2) ハギアスモス 別に取り分けること

① ロマ 6 : 19、22

今は、その手足を義の奴隷としてささげて、聖潔に進みなさい。

今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得たのです。その行き着く所は、永遠のいのちです。

② I コリ 1 : 30

キリストは、私たちにとって、神の知恵となり、義と聖めと、贖い（ギアポルトロシス 将来の買戻し=体の贖い、復活、栄化）とになりました。

③ I テサ 4 : 3.

神のみこころは、あなたがたが聖くなることです。直訳「神のみこころは、あなたがたの聖別です。」・・・神が望んでおられるのは、信者が自分で自分を清くすることではない。神のみこころは、信者をこの世とは別に取り分けることである。それをするのは、神である。神のみこころであるから、信者がそれに愛をもって応答し、自分をゆだねるなら、必ず神は信者を聖別してくださり、御子の似姿に変えていってくださる。聖化は、神のみわざである。

④ I テサ 4 : 4、7

各自わきまえて、自分のからだを、聖く、また尊く保ち、・・・。

神が私たちを召されたのは、汚れを行わせるためではなく、聖潔を得させるためです。・・・聖潔は人が行うものではなく、神から得させていただくものである。神から与えられる、ゆえに恵みである。

⑤ II テサ 2 : 13

神は、御霊による聖めと、真理による信仰によって、あなたがたを初めから救いにお選びになったからです。・・・この箇所「御霊による聖め」は、人を救いに導く聖霊の働きである。第5節でまた扱います。

⑥ ヘブ 12 : 14

すべての人との平和を追い求め、また、聖められることを追い求めなさい。聖くなければ、だれも主を見ることができません。

⑦ I ペテ 1 : 2

父なる神の予知に従い、御霊の聖めによって、イエス・キリストに従うように、またその血の注ぎかけを受けるように選ばれた人々へ。

(3) ハギオテス 別に取り分けること (ヘブ 12 : 10)

霊の父は、私たちの益のため、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして、懲らしめるのです。・・・信者が神のように清くなることではない。神がご自身をこの世とは別にしておられるように、神の子である信者たちをこの世から別に取り分けることが目的である。

(4) ハギオスネイ 聖さ (ロマ 1:4)

御子は、肉によれば、ダビデの子孫として生まれ、
聖さの霊によれば、死者の中からの復活により、大能によって公に神の御子として示された方、私たちの主イエス・キリストです。

(5) ハギオス (形容詞) 聖い 235 回、そのうち 94 回は霊や聖霊について使用される。また、61 回は、信者について、信者の救いの一面として使用される。

(6) ハギオス (すこし意味の違う形容詞として) 純粋な 8 回

(7) ホシオース (副詞) 1 回 (I テサ 2:10)

私たちが、敬虔に、正しく、また責められるところがないようにふるまったことは、あなたがたがあかしし、神もあかししてくださることです。

(8) ホシオテース (名詞)

① ルカ 1:75

きよく、正しく、恐れなく、主の御前に仕える

② エペ 4:24

真理に基づく義と聖をもって、神にかたどり造り出された、新しい人を身に着るべきことでした。・・・「新しい人」とは、信仰によって救われた瞬間にその人の内側に与えられた新しい性質である。「霊」とも呼ばれる。ガラ 6:15 では、新しい性質を受けることを「新しい創造」と表現している。
「神にかたどり造り出された」＝神によって創造された

(9) ヒエロス 神聖なものとされた

① I コリ 9:13 宮に奉仕している者が宮の物、祭壇に仕える者が祭壇の物

② II テモ 3:15 聖書に親しんで来た

結 論

「聖化」とは、基本的には、「別に取り分けること」。霊的に使うと、「神のために別にする」という意味。そのため、「聖化」ではなく、「聖別」と訳されることがよくある。信者が神のために別に取り分けられると、信者は神によって徐々に清くされ、御子の似姿に向けて内面が変えられていく。聖化は、神のわざである。